

名大高等研究院研究者育成特別プログラム (実施期間：平成18～22年度)

実施機関：名古屋大学（総括責任者：濱口 道成）

プロジェクトの概要

高等研究院に研究者育成特別プログラム（テニユアトラック制度）を導入する。高等研究院が候補者を国際公募・選考する。採用された若手研究者には、本プロジェクトにより人件費、研究費、研究員雇用費などを支給し、高等研究院が管理・運営する「高等総合研究館」に研究室及び実験室を貸与し、独立した研究室運営を支援する。教育者としての育成は、対応する推薦部局が支援する。任期終了時には高等研究院が評価し、推薦部局に対してテニユア付与の推薦を行う。充実した研究評価体制を有する高等研究院は、優れたテニユア候補者を客観的に選考するとともに、個々の研究活動の支援及び高等研究院での活動を通して高度で広い視野と高い研究者倫理を有する若手研究者を育成する。本プロジェクトの効果が認められれば、各部局で採用する若手研究者の一部を常に本プロジェクトで試行した方法で運用することになる。そのための経過措置として全学からの定員移動・資金の手当てなどを計画している。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	b	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

従来からの小講座制の下での人事の硬直性を是正しようとする努力は評価できる。また、テニユアトラック若手研究者（以下、「TT若手」という）の教育能力醸成の施策も適切に実施され、海外機関との連携・協力の枠組みを構築し、TT若手の国際性醸成や研究成果の海外への情報発信に注力していることは評価できる。実施期間終了後における新たなテニユアトラック制（以下、「TT制」という）の導入による人材養成システム改革の更なる発展を期待する。

- ・ **目標達成度**：広範な部局でTT制導入を図っていることは評価できる。実施期間終了後における多様な人材の任用に関する具体的な施策立案とその実施を期待する。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：TT若手の選考・審査に当たってピアレビューを行うなど透明性・公平性を確保し、TT若手の任期終了前にテニユア審査を経て自機関の教授として採用しており、優れた若手研究者を任用したことは評価できる。しかし、女性研究者を採用するに至らず、実施期間終了後の新たなTT制導入に当たって、女性研究者を含めた多様なTT若手の採用に関して配慮することを期待する。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT若手の自立性を高めることを企図した「高等研究院」での研究室などの配置は約半数にとどまっているものの、「テニユアトラック教員会議」を設置してTT若手とのコミュニケーションを促進し、優れた研究業績、外部資金獲得などは評価でき

る。しかし、テニユア審査に合格した一部の TT 若手を自機関の「特任」職に採用しており、部局長が正規ポストへの移行を努力しているが、早急な“安定的な職”への採用も期待する。

- **制度設計に対するマネジメント**：プロジェクト実施当初から TT 若手への教育能力向上のために教育業務を行った場合及びトラック期間中の研究テーマに即した獲得外部資金に係る研究活動に従事した場合のエフォート管理の緩和・廃止を求めるなど、本プログラムにおける TT 制の枠組みを適切な方向に誘導する要望を行い、それを実現させたことは評価できる。しかし、テニユア審査に合格した TT 若手を、早急に「安定的な職」に採用することを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：国際公募を実施しないが主として自機関の博士課程修了者を特任助教として任用し育成する「名古屋大学若手育成：YLC プログラム」を発展させた新たな TT 制：YLC-t による公募・選考が進んでいるものの、その TT 若手採用計画は機関の規模と比較して少数である。YLC プログラムと YLC-t との差別化を図り、YLC-t を充実させることによってより多様な人材養成システム改革を推進することが必要である。
- **中間評価の反映**：多様な TT 若手の採用を促す指摘には対応できなかったが、概ね中間評価での指摘に対応している。